

第3回（平成21年度）IODP 部会・執行部会 議事録（案）

日時：2009年8月5日（水） 14：30～17：30

場所：海洋研究開発機構東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

執行部：山崎俊嗣（産業技術総合研究所） 芦 寿一郎（東京大学） 安間 了（筑波大学）
沖野郷子（東京大学） 林 広樹（島根大学） 平野直人（東北大学）
松本 剛（琉球大学） 山本啓之（海洋研究開発機構）

文部科学省海洋地球課：堀 正彦

海洋研究開発機構 CDEX：倉本真一 阿波根直一 北見恵美里

事務局：松永 稔 藤原彰子 加賀谷一茶 梅津慶太 三木真理（議事録原案作成）

欠席者（敬称略）

執行部：池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター） 坂本竜彦（海洋研究開発機構）
末次大輔（海洋研究開発機構） 高澤栄一（新潟大学） 森田澄人（産業技術総合研究所）
山本正伸（北海道大学）

議事次第

1. SAS パネル関連

(1) SSEP 委員公募結果について [事務局] …………… [資料 1]

2. INVEST 関連 [山崎部会長] [資料 2-1, 2-2, 2-3]

3. 乗船関連

(1) IODP 研究航海実施状況 [CDEX, 事務局]

4. 学術交流関連

(1) KJOD シンポジウム／日韓プロポーザル WS 開催に向けて [松本委員] …… [資料 3]

5. 研究支援関係

(1) IODP 乗船研究者への研究費支援に向けた検討…………… [資料 4-1, 4-2, 4-3]

・支援開始時期について

・申請・審査体制について

・応募フォーム 等

6. その他…………… [参考資料 1, 2]

・専門部会・関連委員会からの報告 等

・次回執行部会開催日程

議事録（案）

1. SAS パネル関連

(1) SSEP 委員公募結果について [事務局] …………… [資料 1]

事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 公募の結果、他薦により応募された 3 名（秋田大佐藤氏・名古屋井龍氏・静岡大道林氏）をノミネートすることを執行部で以前承認されている。
- ・ 今後 IODP 幹事会による承認手続きを行い IODP-MI に推薦する。
- ・ 井龍氏については 2010 年 5 月から SSEP Chair に就任して頂く予定である。

以上については本執行部会にて正式承認された。山崎部会長より、若手が多いため、バランスを取るためベテラン佐藤氏に入って頂いたとのコメントがあった。

山崎部会長より、EDP の状況について下記補足があった（森田委員欠席のため議事次第にないが、報告書は回覧済みである。）

- ・ SAS パネルチェアのうち SPC のみは日米覚書によって日米交代で出すことが決まっているが、他のパネルについては、内規でパネルごとに異なる。
- ・ EDP はこれまで日米でまわしてきた。次は日本が Vice Chair を将来の Chair という前提で出す順番であり、浅沼氏をノミネートして IODP-MI にも事前報告をしていたところ、ヨーロッパからも出す動きがあり、話しが違うのではという議論になった。EDP 会議最終日において、日欧 2 人を Vice にし、先の判断は SPC に委ねるという妥協案が採られた。しかしその後、EDP チェア権限でその妥協案は取り消され、先行きは不明である。
- ・ 日本は「ちきゅう」の技術開発という観点から EDP chair は重要と考えている。EDP でローテーションのルールを変更するのであれば、J-DESC から IODP-MI に Vice Chair 候補の連絡をした時点で MI から知らされるべきであった。

事務局より、山崎部会長補足について下記説明があった。

- ・ SPC が Vice Chair 2 人は認められないと却下したため EDP チェア権限で取消すしかなかった。
- ・ 次回 EDP で再度検討となる模様。
- ・ 今後、技術部会担当の森田委員経由で執行部会に状況説明、対応についてあがってくる予定である。

MEXT より、下記所見があった。

- ・ サービスパネルである EDP には、Chair と Vice Chair を日米から選出するという規定はない。SAS チェアは日米というのがあるが、将来の交渉として、日本が負担を多くせねばならない状況となったときの対応として、チェアパーソンシップを発揮できるような立場を確保しておきたいと考える。なし崩し的にならないようにしたいが、これまで日米欧の 3 コミュニティがうまくやって来たのをここでまずくするのもどうかと思われ悩ましいところである。

2. INVEST 関連 [山崎部会長] …………… [資料 2-1, 2-2, 2-3]

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ AESTO による最終派遣人数 4 1 名、J-DESC 独自予算による学生支援 7 名、JAMSTEC 独自予算による参加 2 3 名、計約 7 0 名が日本から参加する予定（把握している分のみ）。
- ・ 7/10 セッションチェア会議で、セッションチェアの役割確認が行なわれた。

- ・ 各セッションは1日半しかなく、時間は非常に少ない。
- ・ ボトムアップのミーティングではあるが、“「ちきゅう」を使った掘削はある種のプロジェクト運営にしないといけない、単発のプロポーザルでは難しい”ということが明らかになっており、このことに各国参加者の同意を得るために INVEST の場を活用することが重要である。長いリードタイムを必要とする「ちきゅう」を使った掘削についてある程度の合意を得たいとして、川幡委員長のもと尽力している。
- ・ 国内モホールコミュニティと Geohazard WS で、INVEST でどういうプレゼンやるかをそれぞれつめる。興味がある方からぜひ積極的にサポートしてほしい。
- ・ 執行部会からは、山崎氏、山本氏、JAMSTEC の3氏（末次、坂本、山本）が参加

MEXT から以下の表明があった。

- ・ 川幡委員長には、“サイエンスプランができたときに、これは「ちきゅう」だというプランをアイデンティファイできるようにしたい”とお願いしている。INVEST という極めて短時間での議論においても種は入ってくるので、それを2年間かけてサイエンスプランに育てていくよう芽をしっかりとだしていきたいと、川幡先生と相談している。「ちきゅう」への財政獲得の努力をするためにも必要である。コミュニティの皆さんからもご協力をいただきたい。

CDEX から議事次第にない当日配布資料（Input from IWG+ to INVEST）について報告があった。

- ・ 12項目あるので、INVEST に参加する方は読んでおいてほしい。

この資料に関して、MEXT より以下の補足説明があった。

- ・ サイエンスプランについては書いてあることを考慮して作成してほしいという IWG からの要請である。
- ・ IWG+は INVEST 後に科学計画をドラフトしていくためのメンバー（ドラフティングメンバー）をどう決めるかの議論をしている。
- ・ INVEST が終わった時点で具体的なドラフティングメンバーができて、来年1月頃正式に IWG に進むという見通し。メンバーの決め方について、SASEC は推薦、MI は公募、欧州は推薦を提案している。日本としても推薦や公募に対応して頂きたい。

山崎部会長より、ドラフティングメンバーは重要である、公募であれば推薦して立候補して頂くということになるとの所見があった。

3. 乗船関連

(1) IODP 研究航海実施状況 [CDEX, 事務局]

CDEX より「ちきゅう」についての標記報告があった。

- ・ 最初のライザーは7月31日で予定の観測について無事終了
- ・ 8月、今朝から2番目ノンライザー、LWD の後、スプレーホール確認後、ケーシング挿入、計測装置入れて終了予定。
- ・ 「ちきゅう」見学の件、Exp. 322 前の新宮港ポートコール中に行いたいという話あったが、他の船舶予定があるので新宮港でのポートコールが難しくなった。代替案を検討中である。

事務局より MSP および JR についての標記報告があった。

- MSP は、Exp. 313 ニュージャージー掘削で 7 月 22 日までの予定であった。正式に終了通達はないが、予定通り終了している模様。今後、Exp. 325 グレートバリアリーフの航海は 10 月下旬～12 月の予定。Onshore party は 4 月予定。
- JR は、ベーリング航海順調。終了後、9 月 4 日に横浜港入港予定、ここから Exp. 324 Shatsky Rise が開始される予定。
- 9 月 5 日に JR の一般向け見学会を行なう。Exp. 324 の Co-chief である科博・佐野氏の協力により、科博、J-DESC、JAMSTEC、USIO の 4 機関共催で開催する。
- 科博ホームページにて、本日（8 月 5 日）募集開始、8 月 25 日〆切。募集人数は 50 名。
- 一般向けについては、JAMSTEC 横浜研究所集合、山崎部会長に IODP の説明をして頂いたのち、バスで横浜港大黒埠頭へ移動ということになる。Exp. 323 の乗船研究者にも協力して頂き、船内をガイドして頂く。
- 続く 9 月 6 日は、IODP 研究者・学生対象の見学会を行なう。明日（8 月 6 日）から J-DESC ホームページで募集開始。募集人数は 30 名程度。
- 募集人数が少ないのは、大黒埠頭が SOLAS 条約指定港で、テロ対策として立入りに事前登録が必要なための制限である。また、Exp. 324 のトランジットが長く、できるだけ多く多くの掘削時間を費やすために港にいる時間を少しでも減らしたいとの Co-chief の意向もある。

執行部会、および MEXT から、研究者やスケジュール等の負担を考慮しても人数が少なすぎないかという意見があがった。

4. 学術交流関連

(1) KJOD シンポジウム／日韓プロポーザル WS 開催に向けて [松本委員] …… [資料 3]

松本委員より標記の件について説明が行なわれた。

- 韓国側窓口は KIGAM キム・ジンホ氏、日本側は松本委員
- 韓国地質学会年会（10/28-10/30 済州島）にあわせて日韓合同の IODP シンポジウム及び沖縄トラフ掘削計画推進のワークショップを K-IODP と J-DESC の共催で開催する。
- スケジュール：

10/29（木）	AM	KIODP（韓国語）
"	PM	Public Forum（韓国語）
10/30（金）	AM	K-JOD シンポジウム（共催）
"	PM	沖縄トラフ掘削ワークショップ
10/31（土）	AM	"
- 10/30（金）AM の K-JOD シンポジウムで双方 3 名ずつ計 6 名のプレゼンを行なうのでどうかというメールが昨夜ジンホ氏より来ている。トータル 3 時間なので妥当であろう。シンポジウムで誰がどういう話をするか、執行部会で推薦頂ければと考える。プレゼンの場所は韓国語 HP からの推測で済州島国際コンベンションセンターと思われる。趣旨としては沖縄トラフに限らないと思うが、シンポジウムのテーマは特にないようである。
- 午後および翌日のワークショップは作業が中心になるであろうから、興味ある方々にはどんどん参加して頂きたい。

これについて、参加をどうするか意見交換、日韓過去の J-DESC 支援などの確認があった。

- 一昨年、日本から 10 名くらい、J-DESC サポートなし、韓国から数名分のサポートがあった。昨年

は、韓国からの参加者に宿泊費のみ支給している。

- ・ 韓国は距離的に近い。今後受入れる場合は先進国として扱うべきである。キーパーソン以外はサポート不要ではないかとの意見があった。
- ・ 山崎部会長より、今回の推薦は常連以外もいれたいとの意向。
- ・ J-DESC は今年度特に日韓シンポのための旅費予算をたてていないので、執行部会の決定による。

以上の見解を踏まえ、シンポで少なくとも3名（一人30分のプレゼン）は参加してもらい、最大6名を派遣することで合意した。連絡はメールで行なう。

その他日韓関係、山崎部会長より。

- ・ 韓国コアスクール（8/23）に講師派遣の依頼あり、産総研の池原氏を派遣する。
- ・ J-DESC コアスクールに韓国から参加したい旨の要請があり、受け入れる方針。実施方法を検討中。

5. 研究支援関係

(1) IODP 乗船研究者への研究費支援に向けた検討…………… [資料 4-1, 4-2, 4-3]
CDEX 倉本氏より標記の件について現状説明がなされた。

- ・ 山崎部会長より、今期は問題点を整理しようという提案があった。
- ・ IODP 研究者への支援のうち、トッププライオリティとして上がってきたのが、研究費支援の問題。
- ・ アメリカやヨーロッパなどは、基本的に何かのサポートをやっているが、日本は乗船旅費のみをサポートして成果を要求している。これが問題である。
- ・ 支援対象者を調べると、年間3航海として80人くらい、J-DESC 今年度契約に研究費サポートはないのでできないし、機構にも予算はない。しかし、地方若手は特にサポートなく厳しい。
- ・ 機構理事に相談の結果タウンホールミーティングの時に理事が一人100万円を公言したが、実際の可能性としては、中期予算見直しにより下半期に捻出できる範囲でやりくりする必要がある。その上で一人50万程度が妥当として山崎部会長と相談した。
- ・ 支出の技術的な検討事項として、上半期4月－9月で区切り、その期間に乗船した人にまず支給し、下半期乗船は次年度に、というように半期ごとに区切ってやってみることを提案している。
- ・ 選定するならどうするか、プロポーザルによって査定するかどうか、今後議論する。
- ・ 上半期見直し時に、JAMSTEC から直接共同研究契約すれば、支出可能ではないかと考える。
- ・ J-DESC の査定によって CDEX で執行するというやりかたはどうかと考えている。

以上を元に、本執行部会において選定方法、支給時期、申請書、支給方法等について活発な議論が行なわれた結果、以下のことについて合意がなされた。（本項目は内部用に記載します。ウェブにアップする際には削除します。）

- ・ 支給対象は全員。
- ・ 予算限度があれば優先順位検討。
- ・ 支給1回50万円限り。
- ・ IODP 外部資金がある研究者には辞退していただく。
- ・ 予算に目途がつけば数年にわたってという可能性もあるが、要検討。
- ・ 今年度上半期分の対象は「ちきゅう」1航海（Exp. 319）のみとなる。320/321 と 323 はサンプリン

グパーティーが行われるため、下船後ではなくサンプリングパーティー終了後に申請資格が発生。

- ・ 申請書は、研究内容 1 ページ、裏に予算内容 1 ページ。
- ・ 審査は掘削航海専門部会にお願いする。
- ・ アフタークルーズワークは、高知コアセンターの IODP 乗船研究者利用申請部分は残すが旅費支援は研究費支援でおこなう。
- ・ 成果公表助成制度は残す。
- ・ J-DESC 独自予算はミックスしない。今年度は少数なのでその必要もないが、将来、支援予算が少しだけ足りなかった場合の救済策として、独自の支援方法を考えてゆく。
- ・ 10 月になるべく早くわたせるようにしたいが、予算措置確定前に公表できないので、審査対象者のみに個々に伝える。
- ・ 申請書フォームは事務局がたたき台の作成を進め、メールやり取りにて検討する。
- ・ 当該研究支援の対象とならないもの（319 以前の航海）については、これまで通りの旅費支援などを行う

6. その他…………… [参考資料 1, 2]

- ・ 次回執行部会開催日程は、INVEST の前後（9 月中旬または 10 月）を予定。

以上